

キャンパスライフ健康支援センター

保健管理・総合相談センターは、保健管理センターと学生相談室・職員相談室が統合して2014（平成26）年1月に誕生し、保健管理センターは保健管理部門に、学生・職員相談室は総合相談部門となった。常三島地区は2009（平成21）年3月に完了した教養教育5号館の改修工事にて、蔵本地区は2013（平成25）年3月に蔵本会館の改修工事にて、それぞれリニューアルし、充実した施設での5年、10年でもあった。

保健管理・総合相談センターは、学生・職員の健康の保持増進と良好な就学就労環境を確保することについて、専門的な立場から支援することを目的とした施設である。

保健管理部門は、学生の定期健康診断や学生・職員の特殊健康診断、学生と職員への相談と診療、感染症予防対策、保健啓発活動、産業医活動および学内の安全衛生に関する活動などを主な業務としており、近年はHbA1c測定器や体成分分析装置の導入など保健管理部門でできるヘルスチェックの幅も広がってきた。

総合相談部門は学生・職員の人権問題も含めたあらゆる相談の対応や教育現場や職場での相談対応につい

ての助言や啓発などを主な業務としており、こちらも教職員のための学生支援の手引きや人権問題の啓発冊子の作成、本学学生の心理学の実習担当など活動の幅が広がっている。

特に両部門の活動が重なるメンタルヘルスの領域では、保健管理部門では常勤精神科医に加えて非常勤医師の応援も得て精神科の診療・相談が充実し、総合相談部門では2013（平成25）年より常勤の臨床心理士が増員され、常三島地区のみでなく蔵本地区でのメンタルヘルス診療相談体制が充実してきた。

2015（平成27）年度には両部門が協力して第45回中国四国大学保健管理研究集会を当番大学として大塚講堂にて開催している。

2019（平成31）年4月より保健管理・総合相談センターは保健管理部門・総合相談部門にアクセシビリティ支援部門が加わり、キャンパスライフ健康支援センターに改組された。今後さらに学生職員の心身の健康・就学支援の幅を広げていく。

